

平成 29 年度 第 1 回学校協議会 記録

日時 平成 29 年 7 月 22 日(土) 13 時～15 時
場所 槻の木高校応接室
参加 浅野良一 (兵庫教育大学教授)
山口裕稔 (槻の木高等学校 PTA 会長)
山口善章 (高槻市立第一中学校校長)
堀田英里 (山口県立光高等学校教諭) <本校視察によりオープン参加くださいました>

竹下健治 (槻の木高等学校校長)
田中 徹 (槻の木高等学校教頭)
河嶋憲治 (槻の木高等学校事務長)
奥本雅俊 (槻の木高等学校指導教諭)
山本 尚 (槻の木高等学校首席)

議事

1. 委員紹介

2. 学校長挨拶

竹下校長

「本日は大変暑い中、またお忙しい中、ありがとうございます。今年度より、学校協議会は、新たに、山口さん、高槻一中の校長先生と、本校 PTA 会長の山口さんをお迎えすることになりました。どうぞよろしく願いいたします。

2 年前の大阪の高校入試の改革により、本校は 3 月の後期（一般入試）になり、今年は 1.03 倍という入試倍率でした。大変苦しい一年間でしたが、その苦しさの中においても「NEXT STAGE」、英語の「週テスト」という新たな取り組みをスタートさせました。おかげさまで、少しずつ上方に転化してきているように思われます。このあたりで皆様のご提言を頂戴したいと思います。」

3. 座長選出

司会 (田中教頭)

「今年度協議会の座長を選出したいと思います。慣例によりますと、本校 PTA 会長が、座長をしていただいておりますが、山口さんいかがでしょうか。」

～山口 PTA 会長、学校協議会座長にされました～

4. 報告(1) 平成 29 年度 教科書採択 について

竹下校長

「今年度教科書採択は別表のとおりです。ご確認の上了承くださいますようお願いいたします。」

～了承されました～

5. 報告(2) 学校からの状況報告

山本首席

〈「(資料) 報告レジュメ」にしたがって報告〉

- ・ 苦しかった平成 28 年度の状況
- ・ 苦しい時期でこそその問題意識、そして具体的取り組みの内容
- ・ 特に「英語週テスト」、「NEXT STAGE」とその成果について

6. 協議 平成 29 年度 学校経営計画報告 について

竹下校長

「めざす学校像については、1 行目の「知徳体」の調和のとれた人格の陶冶をめざす、につきる。」

「中期的目標については、1 (1)ア生徒ニーズの変化に対応したカリキュラムや指導方法の研究、イ国公立大学や難関私立大学への現役合格にむけ必要な学力を育成すること、が重要であると考えている。昨年度、センター受験率 90%以上は達成し、今年度以降、国公立合格者 20%以上をめざしたいと考えている。」

「先進的で他をリードする学校づくりについては、教科組織づくりに力を入れ、槻の木 Can-Do リストと槻の木シラバスを作成し、教科会のさらなる充実を図ること。さらに、細部では、職員会議の資料を A4 サイズに統一し、事前に事務職員の方々に仕分けしていただき、(英語週テストの印刷もお願いしていますが) 円滑な学校運営に取り組んでいるところです。」

7. 自由協議及び提言

浅野さん

「開校当時から、規律と学習を積極的に打ち出したことは、当時の大阪の公立高校では全く例のない新しいことであった。そして、この 10 年で、他の公立高校もそれに追随するようになってきたことを考えると、槻の木のめざす学校像が一定の評価と、生徒、保護者のニーズに応えたものであることが分かった。」

「次の槻の木高校のめざすべきものは、比喩的な表現でいうと、これまでの槻の木はコツコツと努力を継続すること、つまり「額に汗をかく」ことをやってこられた。そして、今回の NEXT STAGE 等の取り組みでは、「心に汗をかく」ことであろう。次は「頭に汗をかく」取り組みが望まれるのではなかろうか。」

竹下校長

「他校における、SGH や SSH などの成果は大きく評価するが、一方でややテーマが限定されての活動が多く、テーマを自ら見つける作業の大切さを意識した教育活動を追求したいということです。これが〈心に汗〉から〈頭に汗〉に転化する一つのきっかけにならないだろうか。」

浅野さん

「なぜ?ということに気づきがないと、テーマは見つからない。」

「ところで、英語週テストについてですが、学力向上への考え方やその手法や、古さを逆手にとった槻の木らしい取り組みで、大変評価できる。偏差値ポイントがあがった、つまり取り組みの成功の要因は、槻の木の生徒獲得に向けた学校説明会などの取り組み

が、学力の同一性だけでなく、マインドの同一性を目標にしていることが一つであろう。」

山口さん（高槻一中校長）

「このような様々な取り組みについては、その量と質に感心もし、ここに槻の木らしさがあると感じました。やはり、中学生には、また特に槻の木を候補に考えている中学生とその保護者にはしっかりと広報してくださればありがたいと思います。」

竹下校長

「週テストやNEXTSTAGEは、昨年苦しかった1年に、いろいろな種をまいたもの。それが今、そしてこれからの槻の木の進むべき方向性を明確にしてくれたのだろう。先日も希望生徒30名をJICA関西支部つれて行きましたが、期待以上の生徒のよい反応がありました。」

山口さん（高槻一中校長）

「中学生や保護者の皆さんは、高校選択の際、大学進学の数値、昨年の倍率や難易度、そして様々な学校や高校生の情報を望んでいます。」

「また、浅野さんが言われた、槻の木高校が同一性の高い高校であることは間違いないと思いますし、そのように伝わっていますが、それは肯定的なことなので、これからも同一性を崩す必要はないと思います。」

「さらに、NEXTSTAGEは大変良い取り組みだと思いますが、特に、事前研修を重視しているのが大変いいのだろうと思います。」

山口さん（PTA会長）

「下の子が現在中3で、槻の木の情報も自然と入ってきます。特に学校HPは情報源とすれば最重要視しており、HPのありようは学校によって相当な差があります。

中学生の目線で、高校生活がどのようなものであるか、をわかりやすく作ってくださればいいと思います。」

浅野さん

「確かに、槻の木は日常がセールスポイント。HPの更新は大変重要でしょうね。」

田中教頭

「その後指摘も感じておりましたので、学校HPは、このたび7月～8月に新たにすることで動いております。期待に沿えるものになるかわかりませんが、楽しみにしておいてください。」

竹下校長

「発信力やメッセージ性のあるHPが槻の木らしいと思っています。」

奥本指導教諭

「英語週テストの報告について、少し補っておきたいと思います。

7～8年くらい前になりますが、静岡県立富士高校に視察に行きまして、そこで英語の

週テストと数学の課題（宿題）の在り様をお土産として持ち帰り、槻の木に対応する形に変えて本校 9 期生にまず実施いたしました。確かな成果は得たものの、諸々の事情でその後 12 期生まで途絶えておりましたが、諸々の事情をクリアし、昨年度 13 期生の 2 年次から復活させました。そうしたところ、思った以上の英語学力の向上と、生徒や保護者の皆様より支持を頂戴し、現在 14 期生での実施も順調に実施できているということです。

週テストの仕組みですが、金曜日の週末課題の内容について月曜日の 1 時間目にいっせいにテストを行います。テストはマークシートで（ちょっと苦労しますが）その日のうちに採点が完了し、さらに、その日のうちに成績不振者を指名して呼び出して、勉強会をするという、かなりスピーディーなシステムです。

平均点は昨年度は 60 点前後、今年度は 64 点前後で、14 期生も確実に学力が伸びているという実感があります。」

山口さん（高槻一中校長）

「英語の授業 1 時間をさいてテストをしているのか。」

奥本指導教諭

「そうです。その点については、この取り組みに踏み込むときの問題点としてあがっていましたが、そのリスクを上回る成果が上がってるのではと思います。」

田中教頭

「大変長時間に及びご協議ありがとうございます。最後に、お一人ずつさらにご提言があれば、ぜひ、お願いいたします。」

浅野さん

「わずか 15 年度間に、ここまで槻の木が伸びてきますと、それを伝統として継続していくためのキーワードが何かできないでしょうか。」

先日、大分舞鶴高校に視察に行った際、生徒たちや教員に、〈締め！頑張れ！粘れ！押し切れ！〉という 4 つのキーワードが生徒たちに定着し、その言葉で鼓舞すると、学校全体が自然と盛り上がる場面を実際に見、感じました。百年の歴史の中で、どのように生まれた言葉かは分かりませんが、伝統の継承と生徒の成長という点から大変重要ではないかと思いました。」

山口さん（高槻一中校長）

「中学校の立場から申し上げますと、このように多様な取り組みをされている高校は、なかなかないでしょうが、できる限り具体的な取り組みのご紹介を中学生にもしていただきたい。それが、中学校での教育にも生かされると考えます。
本日は、ありがとうございました。」

山口さん（PTA 会長）

「保護者の立場から、槻の木の先生方には、週テストや様々なお仕事で大変であることはよくよく承知しております。お身体に気をつけてくださいますようお願いいたします。」

堀田さん（オブザーバー、山口県立光高等学校教諭）

「本日は、大変貴重なお話ありがとうございました。

めざす学校像のキーワードに他をリードすると、先ず公言しすすめておられる志の高さ、自分の学校をよくしようという熱意、に学ばせていただきました。

個人的には、英語週テストは参考になりましたので、槻の木高校が富士高校からそうされたように、本校に持ち帰って前向きに検討したいと考えております。

学校外の学びの場についても、山口県の高校生、高校には、槻の木高校以上に必要な教育内容なのだろうと思います。

本日は、ありがとうございました。」